

## 4 実施計画【評価】(基本施策)

### (1) 水土里の保全整備

#### 「水」の保全整備

- 農業水利施設の保全管理【重点】
- 土地改良区(施設管理者)の体制強化【重点】
- 農業用水の高度利用
- 再生可能エネルギーの導入推進
- 農業用水の確保

- 農作物を安定的に生産するため、農業水利施設の保全対策と円滑な施設管理の実現を推進し、農業用水の安定供給を図る。
- 農業用水を活用した計画的な農作物生産、新規作物の導入や水管理の省力化等を推進し、産地づくりを支援する。

#### 【当該年度目標の達成状況】(取組8項目)

- 『農業水利施設の保全管理』に関する項目のうち、『ライフサイクルコストの低減と対策時期・費用の平準化』では、地元調整や水利権更新の遅れから、計画どおりの地区数着手が困難となり、目標達成できなかったため「C」評価とした。
- 『施設管理者による適切な保全管理』では、目標が達成できたことから「A」評価とした。
- 『土地改良区体制強化基本計画の策定』について、40 土地改良区に対して指導・支援を行ったことにより、対象とした全ての土地改良区で計画を策定することができ、目標達成できたことから、「A」評価とした。
- 再生可能エネルギー推進による小水力発電施設の導入について、2 地区において支援を行ったことから「A」評価とした。

① 農業水利施設の保安全管理 ～ 適切な保安全管理の実現 ～ **重点取組**

施設管理者に対し PDCA サイクルの周知・徹底を図り、適切な保安全管理を促進するとともに、ストックマネジメント手法による施設の長寿命化、並びに対策工事の集中を平準化し、効果的・効率的な施設の保全対策を推進する。

また、自然災害発生時の迅速な対応が図られるよう、BCP(業務継続計画)の策定を推進する。

## ◆ ライフサイクルコストの低減と対策時期・費用の平準化

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ 機能保全計画に基づく、基幹農業水利施設の保全対策 ----- 8地区を実施 ※ 赤城大沼用水3期、大正用水2期、山子田(群馬用水)、坂東大堰、美野原2期、沼田平、大間々用水、深沢川頭首工(大間々用水)	▶ 機能保全計画に基づく、基幹農業水利施設の保全対策 ----- 8地区を実施 ※ 赤城大沼用水3期、大正用水2期、山子田(群馬用水)、坂東大堰、美野原2期、沼田平、大間々用水、深沢川頭首工(大間々用水)	C
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・各地区において、関係機関との協議・調整を行い、2地区で保全対策工事を起工した。その他の地区では工事の発注準備を行った。 ・一部の地区を除き、関係機関との協議・調整等を適宜行い、保全対策に向けた委託・工事を完了させた。 ・発注工事について、関係機関との協議・調整を進め、年度内完了を目指す。		
現状分析課題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・地元調整の遅れや水利権が更新できなかったことにより、目標としていた地区数に着手できなかった。 ・機能保全計画に基づく適時・適切な保全対策を推進する。		

## ◆ 施設管理者による適切な保安全管理

## ・施設管理者による施設監視

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ 機能保全計画に基づく、施設監視 ----- 32土地改良区等を指導・支援 ※ 大正用水、天狗岩堰、広瀬桃木両用水、八坂堰、佐波新田用水、赤城大沼用水、群馬用水、坂東大堰、中群馬、赤城西麓、鎗川、群馬中部、安中磯部、高崎西部、神流川用水、甘楽多野用水、中村堰、藤岡、長野堰、美野原、応桑用水、嬭恋、沼田平、追貝平、赤城北ろく、赤谷川沿岸、待矢場両堰、大間々用水、岡登堰、藪塚台地、邑楽、利根加用水	▶ 機能保全計画に基づく、施設監視 ----- 32土地改良区等を指導・支援 ※ 大正用水、天狗岩堰、広瀬桃木両用水、八坂堰、佐波新田用水、赤城大沼用水、群馬用水、坂東大堰、中群馬、赤城西麓、鎗川、群馬中部、安中磯部、高崎西部、神流川用水、甘楽多野用水、中村堰、藤岡、長野堰、美野原、応桑用水、嬭恋、沼田平、追貝平、赤城北ろく、赤谷川沿岸、待矢場両堰、大間々用水、岡登堰、藪塚台地、邑楽、利根加用水	A
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・2土地改良区等が行う5地域3施設監視について、施設管理者自らが円滑かつ持続的な実施が可能となるよう、「群馬県基幹農業水利施設の施設監視要領」の周知を行った。		
現状分析課題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・非かんがい期において、施設監視の支援・指導を行う。 ・年度内の確実な施設監視により、施設の劣化状況を的確に把握する。		

## ・業務継続計画（BCP）の推進

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ 業務継続計画（BCP）策定の推進 ----- 1 土地改良区を指導・支援 ※ 【対象土地改良区】甘楽多野用水、	▶ 業務継続計画（BCP）策定の推進 ----- 1 土地改良区を指導・支援 ※ 【対象土地改良区】甘楽多野用水、	A
これまでの取組内容	<b>（今年度の取組内容）</b> ・業務継続計画の策定に向けたスケジュール等を確認した。		
現状分析 課 題 今後の予定	<b>（現状分析・課題・今後の予定）</b> ・策定した業務継続計画（BCP）の適時更新を行い、関係機関との連携を図るとともに、導入編にて策定した改良区はバージョンアップを推進する。		

【対象土地改良区（国営造成施設管理者）】 群馬用水、赤城西麓、鎗川、甘楽多野用水、中村堰、待矢場両堰、岡登堰、藪塚台地、邑楽

※ 国営造成施設管理者以外の土地改良区を【推進土地改良区】として表記。

【策定済土地改良区】 赤城西麓、鎗川、中村堰、待矢場両堰、大間々用水、岡登堰、藪塚台地、邑楽、勢多郡東村、利根加用水、天狗岩堰

目標名	H26 (基準年)	H27	H28	H29	H30	H31(R 元) (目標年)
<b>基幹農業水利施設の保全対策に着手した地区数 [地区]</b>						
目 標	—	—	17	20	27	32
実 績	12	16	19	20	20	22
<b>保全対策により農業用水の安定供給が維持された農地面積 [ha]</b>						
目 標	—	—	5,541	6,756	8,761	10,624
実 績	2,933	3,357	4,917	6,312	7,317	7,947
<b>業務継続計画を策定した土地改良区数 [土地改良区]</b>						
目 標	—	—	1	2	7	11(9)
実 績	1	1	2	6	11	12

※ 数値は、累計値。

※ 実績値が H31(R 元)目標値を超えた場合、次年度の目標値に前年度の実績値を標記し、当初目標値を括弧で標記。

② 土地改良区(施設管理者)の体制強化 ～ 組織運営の改善・安定化 ～ **重点取組**

農業水利施設の継続的な適正管理に向けて、農業水利施設等の管理者である土地改良区の運営体制の強化を図る。

## ◆ 土地改良区の運営体制の強化推進

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ 土地改良区体制強化基本計画の推進 ----- 40 土地改良区の計画推進・ 更新の指導・支援 ※ 中部(2 土地改良区)、西部(15 土地改良区)、 吾妻(6 土地改良区)、利根沼田(4 土地改良 区)、東部(13 土地改良区)	▶ 土地改良区体制強化基本計画の推進 ----- 40 土地改良区の計画推進・ 更新の指導・支援 ※ 中部(2 土地改良区)、西部(15 土地改良区)、 吾妻(6 土地改良区)、利根沼田(4 土地改良 区)、東部(13 土地改良区)	<b>A</b>
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・土地改良区体制強化基本計画を策定した土地改良区に対して、基本計画の推進及び更新の指導・支援を行った。		
現状分析課題今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・引き続き、土地改良区体制強化基本計画を策定した土地改良区に対して、基本計画の推進及び更新の指導・支援を行う。		

## 数値目標

目標名	H26 (基準年)	H27	H28	H29	H30	H31(R 元) (目標年)
土地改良区体制強化基本計画を策定した土地改良区数 [土地改良区]						
目 標	—	—	25	12	4	48
実 績	—	—	32	12	4	48

※ 数値は、単年度取組数。最終年度のみ累計値。

## ③ 農業用水の高度利用 ～ 営農の効率化・省力化 ～

地域の営農計画に基づき、畑地かんがいによる農作物の品質向上、パイプライン化などによる水管理の省力化や、地下かんがいシステムの導入による水稻から畑作物への転換など、農業用水の高度利用を図る。

## ◆ 地域の営農計画に即した農業用水の活用と制御

## ・ 畑地かんがい施設の整備

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ 畑地かんがい施設の整備 ----- 2 地区を実施 ※ 上狩野、中原	▶ 畑地かんがい施設の整備 ----- 2 地区を実施 ※ 上狩野、中原	<b>A</b>
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・上狩野地区については、畑地かんがい施設(給水栓及び給水スタンド等)を整備し、中原地区については、給水栓の設置に向け地元説明会を行うなど、農業用水を活用した営農を推進した。		
現状分析課題今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・早期の農業用水の利用が可能となるよう畑地かんがい施設の整備を進めるとともに、高収益作物の導入促進や農業用水利用について普及啓発を行う。		

## ・地下水制御システム（地下かんがいシステム）の検討

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ 導入地区の検討と地元推進体制の整備 ----- 1地区を実施 ※ 吉田	▶ 導入地区の検討と地元推進体制の整備 ----- 1地区を実施 ※ 城沼	A
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・水田地帯の農地整備事業計画地区において、地下水制御システムの導入検討を行った。 ・高収益作物導入に向け、令和2年度から東部地域研究センターにおいて試験研究を行うため、実証ほ場の整備を実施し、予備試験に着手した。		
現状分析課題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・高収益作物導入に向け地下水制御システムによる効果を検証するため、東部地域研究センターにおいて試験研究に着手した。(令和元年度は予備試験、令和2年度から3カ年をかけ試験研究実施) ・上記試験研究と並行して、農地整備事業の新規計画地区において導入検討を行う。		

## 数値目標

目標名	H26 (基準年)	H27	H28	H29	H30	H31(R元) (目標年)
<b>畑地かんがい施設の整備面積 [ha] 【4年間】</b>						
目 標	—	—	8	8	8	30
実 績	—	—	8	0	20	47
<b>地下水制御システム（地下かんがいシステム）の導入検討地区数 [地区]</b>						
目 標	—	—	1	1	1	1
実 績	—	—	1	1	1	1

※ 数値は、単年度取組数。畑地かんがい施設の整備面積については、最終年度のみ累計値。

## ④ 再生可能エネルギーの導入推進 ～ 維持管理費の低減 ～

土地改良施設等の維持管理にかかる費用の低減を図るため、農業用水を活用した小水力発電施設等の導入を推進する。

## ◆ 農村地域における未利用資源を活用した再生可能エネルギー導入推進

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ 小水力発電等の導入に向けた推進 ----- 1地区を支援 ※ 小出	▶ 小水力発電等の導入に向けた推進 ----- 2地区を支援 ※ 小出、宮川	A
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・小出地区及び宮川地区について、土地改良区が行う発電開始のための関係機関との協議調整や事業化に向けた支援を行った。		
現状分析課題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・小出地区及び宮川地区については導入に向け、引き続き関係機関と協議を行い、土地改良区に対して事業化に向けた支援を行う。		

## 数値目標

目標名	H26 (基準年)	H27	H28	H29	H30	H31(R元) (目標年)
<b>農業用水を活用した小水力発電施設の稼働数 [施設]</b>						
目 標	—	—	—	2	1	4
実 績	—	—	—	3	1	4

※ 数値は、単年度取組数。最終年度のみ累計値。

## ⑤ 農業用水の確保 ～ 多様な農産物生産への備え ～

農業用水の安定的な確保に向けて、水利用の実態把握に努めるとともに、河川協議を円滑に整えるための調査や調整を行う。

また、東部地域の利根川左岸における冬期用水の確保に必要な調査や調整を行う。

## ◆ 許可水利権の円滑な更新

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ 円滑な水利権更新のための調査 ----- 5地区を実施 ※ 天狗岩堰、十二堰、長野堰、藤岡中央、八間樋	▶ 円滑な水利権更新のための調査 ----- 6地区を実施 ※ 天狗岩堰、十二堰、長野堰、藤岡中央、八間樋、広瀬桃木両用水	A
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・天狗岩堰、長野堰、藤岡中央、八間樋について、更新協議に係る資料作成や河川管理者との調整を行った。 ・十二堰については、水利権が許可された。 ・広瀬桃木両用水について、更新協議に係る調整等支援を行った。		
現状分析 課 題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・引き続き、更新協議中の地区について、資料のとりまとめや河川管理者との協議を進めていく。		

## ◆ 冬期用水の確保

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ 冬期用水確保のための水質調査 ----- 1地区を実施 ※ 利根大堰左岸	▶ 冬期用水確保のための水質調査 ----- 1地区を実施 ※ 利根大堰左岸	A
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・利根川左岸の冬期通水について関係機関と調整を図るとともに、通水効果を調査した。		
現状分析 課 題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・今後も水環境実態調査等を取りまとめ、試験通水による効果のデータ蓄積を行っていく。		

## 数値目標

目標名	H26 (基準年)	H27	H28	H29	H30	H31(R元) (目標年)
河川協議に向けて支援を行う件数 [件]						
目 標	—	—	3	6	10	10
実 績	—	—	4	9	11	12

※ 数値は、累計値。

## 「土」の保全整備

- 担い手の育成・確保のための計画策定【重点】
- 農業生産性を高める基盤整備【重点】
- 地域ニーズに即した基盤整備【重点】
- 農道の保全
- 野生鳥獣被害の防止

- 地域の実情とニーズを踏まえた基盤整備により、農業生産性の向上による生産費の低減を図る。
- 生産から流通に関わる生産基盤の保全により、農業生産性の維持を図る。
- 力強い担い手を育成するため、農業生産性の高い農地の確保と基盤整備を契機とした担い手への農地集積・集約化を促進する。

## 【当該年度目標の達成状況】(取組9項目)

- 『農業生産性を高める基盤整備』において、目標達成に向けて12地区で取り組んだが、目標年の目標値を下回ったことから「C」評価とした。  
なお、農地集積支援の取組については、目標を達成したことから「A」評価とした。
- 『地域ニーズに即した基盤整備』では、簡易なほ場整備の推進により、新たに1地区の大区画化が図ったが、目標達成には至らなかったため、「B」評価とした。
- 『農道の保全』では、農産物の流通及び通作に支障を来たさぬよう実施内容を見直しながら、5地区で保全対策に取り組んだが、目標年の目標値を下回ったことから「C」評価とした。
- 『野生鳥獣被害の防止』では、拡大する被害に対して、国、県の予算を確保することにより、地域要望に対応できたことから、「A」評価とした。

## ⑥ 担い手の育成・確保のための計画策定 ～ 力強い経営体の育成 ～

重点取組

農業生産性の向上と担い手を主体とした地域の営農計画を基に、整備計画を策定するとともに、より担い手への農地集積・集約化を促進するため、農地中間管理機構と連携した事業計画を策定する。

## ◆ 収益性の高い農業経営実現のための事業計画づくり

	計 画	実 績	評価
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 地域の営農計画に即した事業計画策定 ----- 2地区のとりまとめ ※ 大正用水3期、富士見</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 地域の営農計画に即した事業計画策定 ----- 2地区のとりまとめ ※ 大正用水3期、富士見</li> </ul>	<b>A</b>
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・土地改良区等関係機関と協力し、地域営農計画に即した事業計画を策定した。		
現状分析 課 題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・国のヒアリングを受けて事業計画の最終とりまとめを行い、県の事前評価を経て採択を申請した。		

## ◆ 担い手への農地集積・集約化を確実に進める計画づくり

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ 農地集積・集約化のための事業計画策定 ----- 4地区のとりまとめ ※ 境小此木東部、保美、牛の平、緑町	▶ 農地集積・集約化のための事業計画策定 ----- 4地区のとりまとめ ※ 境小此木東部、保美、牛の平、緑町	A
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・地域の話し合いにより、農地中間管理事業を活用した担い手への農地集積を進め、事業計画をとりまとめた。		
現状分析 課 題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・国のヒアリングを受けて事業計画の最終とりまとめを行い、県の事前評価を経て採択を申請した。		

## 数値目標

目標名	H26 (基準年)	H27	H28	H29	H30	H31(R元) (目標年)
農地中間管理事業との連携を推進した区画整理の計画地区数【地区】【4年間】						
目 標	—	—	1	1	2	全地区
実 績	—	—	1	0	2	7

※ 数値は、単年度取組数。なお、最終年度は地区数（年度の重複を除く）の累計値

⑦ 農業生産性を高める基盤整備 ～ 担い手が活躍する生産基盤の確保 ～ **重点取組**

営農計画に基づく総合的な農業生産基盤整備を実施し、生産性、収益性の高い農業の展開による地域農業振興や農地中間管理事業と連携した担い手への農地集積・集約化を促進する。

## ◆ 経営の効率化安定のための基盤整備

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ 農業生産性の向上と担い手への農地集積を促進するための基盤整備 ----- 9地区を実施 ※ 上細井中西部、上狩野、中原、笠張、松義西部、下戸塚、笹川沿岸、牛田川除、五箇谷 ----- 2地区を支援 ※ 境下武士、宇田・一ノ宮	▶ 農業生産性の向上と担い手への農地集積を促進するための基盤整備 ----- 10地区を実施 ※ 上細井中西部、上狩野、中原、笠張、松義西部、下戸塚、笹川沿岸、牛田川除、五箇谷、下江黒 ----- 2地区を支援 ※ 境下武士、宇田・一ノ宮	C
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・各地区において、工事及び委託業務の発注を行い、事業の進捗を図った。 ・新規の笠張地区及び下江黒地区では、換地原案作成に向けて、地元調整及び測量などを実施した。 ・上狩野地区及び笹川沿岸地区では計画変更の手続きに着手し、牛田川除地区では、計画変更に向けてこれまでの実績等の整理を行った。		
現状分析 課 題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・過年度における予算不足と、新規地区の立ち上げが遅れたため、目標としていた整備面積に達しなかった。 ・今後も、地元要望実現のため、計画的な整備に取り組むとともに、予算確保に努め、早期の効果発現を図る。		



## ◆ 担い手へのさらなる農地集積促進

## ・ 各種制度活用による農地集積支援

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ 基盤整備を契機とした農地集積の促進 ----- 9地区を支援 ※ 上細井中西部、上狩野、中原、笠張、松義西部、下戸塚、笹川沿岸、牛田川除、五箇谷	▶ 基盤整備を契機とした農地集積の促進 ----- 10地区を支援 ※ 上細井中西部、上狩野、中原、笠張、松義西部、下戸塚、笹川沿岸、牛田川除、五箇谷、下江黒	A
これまでの取組内容	<b>（今年度の取組内容）</b> ・ 農地中間管理事業を活用した農地集積が促進されるよう各種会議等での制度周知を行うとともに、農地集積に向けた支援を行った。		
現状分析 課 題 今後の予定	<b>（現状分析・課題・今後の予定）</b> ・ 引き続き、担い手への農地集積に向けた調整を行うとともに、会議の場等を借りて農地中間管理事業の周知を図る。 ・ また、受益者の負担軽減を図るためには、中心経営体農地集積促進事業が有効なことから中心経営体への農地集積をさらに進める。		

## ・ 農地集積に合わせた簡易な整備

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ 簡易な整備手法による区画拡大 ----- 1地区を支援 ※ 前橋市（1地区）	▶ 簡易な整備手法による区画拡大 ----- 1地区を支援 ※ 太田市（1地区）	A
これまでの取組内容	<b>（今年度の取組内容）</b> ・ 市町村が実施する農地集積を進めるための畦畔除去等による区画拡大等の事業推進を支援した。 ・ 来年度の実施予定地区について、市町村に対して事業計画策定等の支援を行った。		
現状分析 課 題 今後の予定	<b>（現状分析・課題・今後の予定）</b> ・ 引き続き、畦畔除去や暗渠排水等による耕作条件の改善を推進する事業主体への支援を行う。		

目標名	H26 （基準年）	H27	H28	H29	H30	H31 （目標年）
<b>区画整理による整備面積（水田・畑）[ha]【4年間】</b>						
目 標	—	—	61.9	154.0	231.7	320.0
実 績	—	—	53.7	94.3	178.9	222.7
<b>農地中間管理事業との連携を推進した区画整理の実施地区数 [地区]【4年間】</b>						
目 標	—	—	12	12	10	全地区
実 績	—	—	13	12	10	14

※ 区画整理による整備面積の数値は、累計値。

※ 農地中間管理事業との連携を推進した区画整理の実施地区数の数値は、単年度取組数。なお、最終年度は地区数（年度の重複を除く）の累計値。

⑧ 地域ニーズに即した基盤整備 ～ きめ細やかな対応 ～ **重点取組**

平坦地域における 10a 区画水田の畦畔除去や農作業道の幅員が狭小ヶ所の拡幅など地域の要望に応じたきめ細やかな基盤整備を支援する。

## ◆ 簡易な整備手法等による基盤整備

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ 10a 区画水田における区画拡大 ----- 1 地区を支援 ※ 城沼	▶ 10a 区画水田における区画拡大 ----- 1 地区を支援 ※ 城沼	<b>B</b>
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・農地の区画拡大を図るための工事実施に向けて、事業実施主体に対して助言・指導を行った。		
現状分析 課 題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・整備費を抑えた簡易整備により、水稻の生産コストの低減が図られる農地が確保できることから、簡易な整備手法を継続的に推進する。		

## ◆ 営農条件改善のための基盤整備

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ 農業用施設の維持管理の低減や農作業の省力化を図る基盤整備 ----- 12 地区を実施・支援 ※ 前橋第 2、前橋南部、大正用水 3 期、子母山、広川原、嬭恋西部、嬭恋北部、干俣、追貝原、頭沼、明和 6、海老瀬・細谷	▶ 農業用施設の維持管理の低減や農作業の省力化を図る基盤整備 ----- 14 地区を実施・支援 ※ 前橋第 2、前橋南部、大正用水 3 期、子母山、広川原、嬭恋西部、嬭恋北部、干俣、追貝原、頭沼、明和 6、明和 8、明和 9、海老瀬・細谷	<b>A</b>
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・事業実施地区において、計画的に事業推進が図られるよう関係市町村等を指導した。 ・来年度の実施予定地区について、関係市町村等に対して事業計画策定等の支援を行った。		
現状分析 課 題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・引き続き計画的な事業推進が図られるよう、事業実施主体への事業計画策定等を支援する。		

## 数値目標

目標名	H26 (基準年)	H27	H28	H29	H30	H31(R 元) (目標年)
10a 区画水田の区画拡大をした面積 [ha] 【4 年間】						
目 標	—	—	18.7	40.0	60.0	80.0
実 績	—	—	26.4	38.9	49.2	67.2

※ 数値は、累計値。

## ⑨ 農道の保全 ～ 生産・流通・生活を支える ～

農村地域の生活や生産と流通を支える基幹的な農道の持続的な機能発揮をするため、ライフサイクルコストを低減する農道保全対策計画を作成し、保全対策計画に基づいた整備を実施するとともに、施設管理者が適切な管理が行えるよう支援する。

## ◆ 生産・流通と農村地域の生活を支える農道機能の持続的な発揮

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ 保全対策計画に基づく、保全対策 ----- 5地区を実施 ※ 赤城南第2、大笹、中之条、榛名西麓1期、 赤城西	▶ 保全対策計画に基づく、保全対策 ----- 5地区を実施 ※ 赤城南第2、大笹、中之条、榛名西麓1期、 赤城西	C
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・通作や農産物の流通経路の確保に向けて、保全対策計画に基づく、橋梁の補修・補強や路面補修に取り組んだ。		
現状分析課題今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・早期効果発現を図るため、適正な工程管理に努めるとともに、関係機関と来年度の事業推進に向けた協議、調整等を行う。 特に、台風第19号で甚大な被害があり、災害復旧事業を優先的に実施していることから、円滑な保全対策が実施できるよう地元関係者、建設業者及び関係機関等と綿密な調整を行う。		

## 数値目標

目標名	H26 (基準年)	H27	H28	H29	H30	H31(R元) (目標年)
基幹的な農道の保全対策の実施延長 [km]						
目 標	—	—	19.6	27.8	29.2	30.0
実 績	14.2	15.5	15.9	17.8	20.1	22.5

※ 数値は、累計値。

## ⑩ 野生鳥獣被害の防止 ～ 営農意欲を守る ～

市町村の鳥獣被害防止計画に基づき、侵入防止柵の設置を推進し、地域ぐるみで行う被害防止対策を支援する。

## ◆ 野生鳥獣被害による営農意欲の減退を防ぐ野生鳥獣被害防止対策

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ 侵入防止柵等の設置 ----- 9市町村において実施・支援 ※ 前橋市、渋川市、富岡市、安中市、甘楽町、 東吾妻町、沼田市、みなかみ町、桐生市 ----- 40km の設置・設置支援	▶ 侵入防止柵等の設置 ----- 11市町村において実施・支援 ※ 前橋市、渋川市、富岡市、安中市、甘楽町、 東吾妻町、高山村、嬭恋村、沼田市、みなか み町、桐生市 ----- 52km の設置・設置支援	A
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・早期執行に向け、申請者の手続き等を支援した。		
現状分析課題今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・各地区において、市町村の鳥獣害対策を支援し農業被害の軽減を図る。		

## 数値目標

目標名	H26 (基準年)	H27	H28	H29	H30	H31(R 元) (目標年)
<b>野生被害防止対策を支援した市町村数 [市町村]</b>						
目 標	—	—	12	13	14	17
実 績	(17)	—	14	17	14	21
<b>侵入防止柵の設置延長 (km/年)</b>						
目 標	—	—	40.0	40.0	40.0	40.0
実 績	—	—	50.5	59.3	57.8	52.6

※ 基準年の ( ) 内は、過去 4 年間 (H25～27) の実績であり、4 年間で同数の実施・支援を目指した。

数値は単年度取組数。なお、野生被害防止対策を支援した市町村数についての最終年度は、市町村 (年度の重複を除く) の累計値。

## 「里」の保全整備

- 災害に強い農村づくり【重点】
- ため池の保全
- 農村地域の防災減災対策
- 農村集落環境の保全
- 中山間地域の振興【重点】
- グリーン・ツーリズムの推進

- ため池の改修等による防災対策や、災害発生時等における被害の減災対策に取り組み、農業経営の安定と国土保全を図る。
- 農村地域における生活環境の維持・向上を図り、暮らしたい農村づくりに取り組む。
- 多彩な地域資源の積極的な活用への取り組みや多様な分野との連携による都市農村交流を推進し、活力ある農村づくりを目指す。

### 【当該年度目標の達成状況】(取組 13 項目)

- 『災害に強い農村づくり』において、ため池の耐震性点検調査などにおいて単年度の取り組み内容は減少したが、目標年の目標値を上回ったことから、「A」評価とした。また、ハザードマップの作成は、目標を達成できた。
- 災害に強い安全な農村づくりに向けて、ため池の保全整備や湛水被害対策では、円滑に事業実施できたことから「A」評価とした。
- 地すべり防止区域における農地・国土保全では、4 地区において機能保全計画(個別施設計画)の策定し、目標年の目標値を上回ったことから「A」評価とした。
- 石綿が使用された農業用管水路の撤去では、地元調整の結果、農業用水の安定供給を図るため、先行して新設管の布設を行い、石綿管の撤去を次年度以降としたことから「C」評価となった。
- やま・さと応援隊 5 団体が地域に入り、地域資源調査やその活用方法について提案した。
- 地域興しマイスターを 16 回派遣し、地域の課題解決に役立てたので「B」評価とした。
- グリーン・ツーリズムの推進では、HP「ぐんまのグリーン・ツーリズム」をリニューアルし、群馬のグリーン・ツーリズムの魅力の発信を強化、情報の充実をすることができたので「A」評価とした。
- 外部からの移住者等の定住による中山間地域の活性化を図るため、地域特性を活かす「中山間元気創生基盤整備構想」を 1 地区策定した。

## ⑪ 災害に強い農村づくり ～ 自然災害への備え ～

## 重点取組

農業用水利施設の防災対策や災害発生時等における被害の減災対策に取り組み、農業経営の安定と国土保全を図る。

## ◆ 災害に備えた補強対策による防災減災の推進

## ・ ため池の耐震性能の把握

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ 耐震性能検証 --- 2地区(18か所)を実施・支援 ※ 太田4(16か所)、みどり1(2か所) ▶ 豪雨に対する安全性検証 ----- 3地区(13か所)を支援 ※ 前橋第6(10か所)、鎌田温水ため池、みどり1(2か所)	▶ 耐震性能検証 ----- 3地区(9か所)を実施・支援 ※ 前橋第6(2か所)、太田4(6か所)、みどり1(1か所) ▶ 豪雨に対する安全性検証 ----- 2地区(2か所)を支援 ※ 鎌田温水ため池、みどり1(1か所)	A
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・ 防災重点ため池の再選定により、実施地区の見直しを行ったこと、また、会計検査院からの豪雨調査に係る指摘を踏まえ、調査内容・方法について検討が必要となったことから、地震及び豪雨の詳細調査か所の変更を行った。		
現状分析課題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・ 防災重点ため池の再選定により調査対象となるため池数が増加したことから、詳細調査の必要性、重要性を関係市町村に周知し、検証の早期完了に向けて加速化を図る。		

## 【耐震性能を確認するため池】

※県営：鈴峰貯水池、桃泉貯水池(\*再検証)

※団体営：〔前橋〕五料沼、原貯水池【2】、〔太田〕北金井溜池(上池)、長手第1溜池(上池)、長手第2溜池(下池)、福田池、滝之入池、湯之入上溜【6】、〔みどり〕阿左美沼【1】

## 【豪雨に対する安全性を確認するため池】

※団体営：〔片品〕鎌田温水ため池、〔みどり〕阿左美沼

## 数値目標

目標名	H26 (基準年)	H27	H28	H29	H30	H31 (目標年)
耐震性能を確認したため池数〔ヶ所〕						
目 標	—	—	70	84	95	99
実 績	45	49	70	84	91	104

※数値は、累計値。

## ◆ 地域との連携による防災減災の取り組み推進

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ ため池のハザードマップ作成 ----- 2地区(18ヶ所)を支援 ※ 太田4(16か所)、みどり1(2か所)	▶ ため池のハザードマップ作成 ----- 4地区(20ヶ所)を支援 ※ 前橋第8(6か所)、伊勢崎第2(4か所)、太田4(7か所)、みどり1(3か所)	A
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・ 防災重点ため池の再選定に伴い、今年度に作成するため池の再調整を行ったところ、新たに2地区を追加支援することとし、4市4地区を支援した。		
現状分析課題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・ 防災重点ため池に係る対策の第一段階として、ハザードマップ作成の理解促進を図り、緊急時における地域住民の迅速な避難行動につなげる。		

## 【ハザードマップを作成したため池】 20施設

※団体営：〔前橋〕五料沼、大堤沼、中子沼、原貯水池、長又沼、久保替戸沼【6】、〔伊勢崎〕八幡沼、蟹沼、磯沼、伊与久沼【4】、〔太田〕長手第1溜池(上池)、長手第2溜池(下池)、福田池、滝之入池、湯之入上溜、湯之入中溜、湯之入下溜【7】、〔みどり〕阿左美東貯水池、阿左美沼、鹿の川沼【3】

## 数値目標

目標名	H26 (基準年)	H27	H28	H29	H30	H31(R 元) (目標年)
ハザードマップの作成を支援したため池数〔ヶ所〕						
目 標	—	—	51	67	87	91
実 績	29	29	51	67	90	112
耐震性能を確認した農業水利施設（ため池除く）数〔施設〕						
目 標	—	—	12	88	131	131 (135)
実 績	—	—	55	104	131	131

※ 数値は、累計値。

※ 平成 30 年度に調査対象施設を再整理し、135 施設から 131 施設へ変更した。

## ⑫ ため池の保全 ～ 地域による管理体制の再構築 ～

農業用水の安定確保と地域の防災減災を図るため、早期に改修が必要なため池を計画的に改修する。

## ◆ 農業用水の安定確保とため池の管理体制整備

	計 画	実 績	評価
取組内容	<p>▶ 早期に改修が必要なため池の保全整備 ----- 12 地区を実施</p> <p>※ 【ため池整備】池田、大谷・牛秣、大谷の堤 ※ 【ため池緊急防災減災対策】中野貯水池、穂積ため池、三峰第 1、奥沢下沼、宇楚井、鎌田温水ため池、権現上、宮原貯水池、二又の池</p>	<p>▶ 早期に改修が必要なため池の保全整備 ----- 8 地区を実施</p> <p>※ 【ため池整備】池田、大谷・牛秣、大谷の堤 ※ 【ため池緊急防災減災対策】中野貯水池、穂積ため池、三峰第 1、奥沢下沼、宇楚井</p>	A
これまでの取組内容	<p>(今年度の取組内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ため池整備で実施している池田ため池及び大谷池は、耐震性能が不足することから補強対策を一部実施した。</li> <li>ため池緊急防災減災対策(4 地区)については、国の事業制度が拡充され、国庫補助事業の要件を満たすこと等、状況が変化したことから、再度、実施について調整することとした。</li> </ul>		
現状分析 課 題 今後の予定	<p>(現状分析・課題・今後の予定)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>池田地区及び大谷・牛秣地区については、早期の補強対策工事が完了できるよう、関係機関及び地元との調整を図る。</li> <li>ため池緊急防災減災対策事業の実施地区については、次年度の対策工事が早期に着工できるよう地元調整を進める。</li> </ul>		

【耐震化等の対策を実施するため池】

※池田、大谷池、牛秣貯水池、中野貯水池、穂積ため池、三峰第 1 ため池

## 数値目標

目標名	H26 (基準年)	H27	H28	H29	H30	H31(R 元) (目標年)
老朽ため池等の改修済数(耐震対策工事を含む)						
目 標	—	—	3	1	2	8
実 績	—	—	3	1	2	8

※ 数値は、単年度取組数。最終年度のみ累計値。

## ⑬ 農村地域の防災減災対策 ～ 農地・地域を守る ～

農地を含めた農村地域の生活環境の維持・向上を図るため、農村地域の湛水被害の未然防止や地すべり防止区域における地すべり対策工事と機能確保のための維持管理等を行う。

また、石綿セメント管が使用されている農業用管水路の撤去等を実施する。

## ◆ 農地への湛水被害の未然防止

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ 農業用排水路の整備による湛水被害対策 ----- 1地区を実施 ※ 大久保	▶ 農業用排水路の整備による湛水被害対策 ----- 1地区を実施 ※ 大久保	A
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・大久保地区では、地元及び関係機関と調整を行い、排水路工事を実施した。		
現状分析 課 題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・引き続き、計画的な工事实施に努めるとともに、用地取得を先行して行う。		

## ◆ 地すべり防止区域における農地・国土保全

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ 協働による地すべり防止区域の監視 ----- 9地区で実施 ※ 白井、中郷、戸野、中野、高立、栃久保、河振、八木沢、わらび峠 ▶ 機能保全計画（個別施設計画）の策定 ----- 4地区で実施 ※ 白井、中野、八木沢、わらび峠	▶ 協働による地すべり防止区域の監視 ----- 9地区で実施 ※ 白井、中郷、戸野、中野、高立、栃久保、河振、八木沢、わらび峠 ▶ 機能保全計画（個別施設計画）の策定 ----- 4地区で実施 ※ 白井、中野、八木沢、わらび峠	A
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・地域住民及び市町村との協働による地すべり監視体制構築のため、地域住民との監視協定を締結した。 ・地すべりの変位状況確認を行うため、地下水位等の観測業務を委託した。		
現状分析 課 題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・地すべり防止区域指定地区について、地震や台風等の異常気象発生時には、「群馬県耕地地すべり防止施設緊急点検要領」に基づく施設点検を実施する。 ・今後は策定した地すべり防止施設の機能保全計画を踏まえ、地すべり施設の長寿命化対策を実施する。		

## ◆ 石綿を使用した農業用管水路の撤去

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ 農業用管水路の改修 ----- 4地区を実施 ※ 前橋北部、榛名東部、赤城原、北ろく赤谷	▶ 農業用管水路の改修 ----- 4地区を実施 前橋北部、榛名東部、赤城原、北ろく赤谷	D
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・円滑な関係機関との協議を図り、計画的に整備を実施し、事業進捗を図った。		
現状分析 課 題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・対策工事の早期効果発現を図るため、適正な工程管理に努めるとともに、関係機関との協議調整等により、今後も円滑な事業推進を図る。		



## 数値目標

目標名	H26 (基準年)	H27	H28	H29	H30	H31(R 元) (目標年)
地すべり防止施設の機能保全計画の策定地区数 [地区]						
目 標	—	—	—	2	4	6
実 績	—	—	—	1	5	9
石綿セメント管の撤去延長 [km]						
目 標	—	—	9.7	17.3	25.1	30.3
実 績	5.5	6.1	6.3	8.0	9.5	11.5

※ 数値は、累計値。

## ⑭ 農村集落環境の保全 ～ 農村地域の水質環境と生活水準の維持・向上 ～

農業集落排水の施設において、整備後 20 年が経過した施設が増加してきており、老朽化や機能低下が見受けられる状況となっていることから、適時・適切な修繕と更新により施設の長寿命化等を図り、ライフサイクルコストの低減を進める。

## ◆ 施設の長寿命化とライフサイクルコストの低減

	計 画	実 績	評価
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 施設の劣化状況等を調べる機能診断調査 ----- 1 施設を支援 ※ 広馬場</li> <li>▶ 効率的な機能保全対策を定めた最適整備構想の策定 ----- 2 町村を支援 ※ 甘楽町、榛東村</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 施設の劣化状況等を調べる機能診断調査 ----- 1 施設を支援 ※ 広馬場</li> <li>▶ 効率的な機能保全対策を定めた最適整備構想の策定 ----- 2 町村を支援 ※ 甘楽町、榛東村</li> </ul>	A
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・国費及び県費の予算執行手続きを進め、機能診断調査及び最適化構想策定において要望どおりの交付決定を行った。		
現状分析課題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・事業実施に向けた支援を行う。		

## 数値目標

目標名	H26 (基準年)	H27	H28	H29	H30	H31(R 元) (目標年)
農業集落排水施設の最適整備構想策定市町村数 [市町村]						
目 標	—	—	10	15	20	21
実 績	5	6	11	15	20	21

※ 数値は、累計値。

⑮ 中山間地域の振興 ～ 豊かなむらづくり ～ **重点取組**

高齢化や人口減少が進む中山間地域において、集落や多様な組織と連携・協働した体制づくりを支援するとともに、新たな人材等が農業生産を行えるよう整備構想を策定する。

## ◆ 地域全体でコミュニティ機能を維持するための集落内外との連携強化

取組内容	計 画	実 績	評価
	▶ 集落ぐるみの活動体制づくり支援 ----- 18回のマイスター派遣	▶ 集落ぐるみの活動体制づくり支援 ----- 16回のマイスター派遣	<b>B</b>
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・5月末に群馬県農業会議と委託契約を締結した。 ・マイスターを派遣し、地域の課題に対応した。		<b>【中間】 A</b>
現状分析 課 題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・年間をとおして、計画的な派遣となるように進捗管理を行う。		

## ◆ 地域特性を活かした生産基盤整備の推進

取組内容	計 画	実 績	評価
	▶ 中山間元気創生基盤整備構想の策定 ----- 1地区を実施	▶ 中山間元気創生基盤整備構想の策定 ----- 1地区を実施	<b>A</b>
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・県内1地区において、地域特性を活かした整備構想の策定を行った。		
現状分析 課 題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・整備構想を策定した地区において、構想の実現による農業振興を図るため具体的な検討に着手する。 ・来年度は、1地区の実施を予定。		

## ◆ 多様な組織との協働による地域づくりと移住等の受入れ促進

取組内容	計 画	実 績	評価
	▶ やま・さと応縁隊による活動調査 ----- 4件を実施 ▶ 棚田保全活動事業による住民協定 ----- 1件を締結	▶ やま・さと応縁隊による活動調査 ----- 5件を実施 ▶ 棚田保全活動事業による住民協定 ----- 1件を締結	<b>A</b>
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・やま・さと応縁隊4大学5件と委託契約し、農山村の活性化に向けた活動を実施し、成果発表会を行った。 ・棚田保全活動事業において、新たに1協定を締結し、実施数は8地区となった。 ・地域住民団体による棚田の保全活動を支援した。		
現状分析 課 題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・大学の調査活動が地域の要望を組み入れられるよう調整を図りながら、進捗管理を行う。 ・棚田保全活動の適切な進捗管理を行い、成果がわかるような取りまとめを行う。		

## 数値目標

目標名	H26 (基準年)	H27	H28	H29	H30	H31(R元) (目標年)
棚田保全活動事業による住民協定締結数 [協定]						
目 標	—	—	6	8	8	8
実 績	2	5	6	7	7	8

※ 数値は、累計値。

## ⑩ グリーン・ツーリズムの推進 ～ 交流による地域の活性化 ～

多彩な地域資源と地域の特性を活かした取り組みを推進するとともに、観光周遊ルートと組み合わせたグリーン・ツーリズムを推進するなど、都市と農村の交流の促進による地域活性化を図る。

## ◆ 地域ぐるみの推進体制づくりと事業展開プログラムの策定

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ グリーン・ツーリズム推進のためのプログラム策定等支援 ----- 5 団体を支援	▶ グリーン・ツーリズム推進のためのプログラム策定等支援 ----- 4 団体を支援	<b>B</b>
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・4 団体の地域連携システム整備事業計画を認定し、地域ぐるみのグリーン・ツーリズムを推進した。		
現状分析 課 題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・グリーン・ツーリズム推進のため、地域の体制整備等きめ細やかな支援を実施する。		

## ◆ 農泊に対する理解と推進

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ 群馬の魅力発信強化 ----- 1 件を実施	▶ 群馬の魅力発信強化 ----- 1 件を実施	<b>A</b>
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・HP「ぐんまのグリーン・ツーリズム」をリニューアルし、群馬のグリーン・ツーリズムの魅力を発信した。		
現状分析 課 題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・地域活性化の方策として、農泊を引き続き推進し、地域の取組を支援していく。		

## 数値目標

目標名	H26 (基準年)	H27	H28	H29	H30	H31(R 元) (目標年)
公設交流体験施設利用者数 [人]						
目 標	—	—	335,000	341,000	347,000	353,000
実 績	327,737	332,848	339,692	368,606	372,829	366,278

※ 数値は、単年度取組数。

## (2) 協働

- 農地維持・資源向上【重点】
- 地域構想づくり支援
- 農業農村への理解促進

- 農業者を中心とした地域のコミュニティ機能の発揮を促進し、農村の振興と多面的機能の維持・発揮に取り組むとともに、担い手の負担軽減と農地集積等の構造改革を後押しする。
- 農業農村の有する役割や良好な多面的機能の維持・発揮について、県民の理解を促進し、農村地域の維持発展に努める。

### 【当該年度目標の達成状況】(取組5項目)

- 『農地維持・資源向上』において、制度内容の周知やきめ細やかな支援を行ってきたが、事業実施の更新を行わず、活動を取りやめた組織が例年に比べ多く、取組面積が若干減少してしまい目標達成には至らなかったことから、「B」評価とした。

### ① 農地維持・資源向上 ～ 地域コミュニティ機能の発揮 ～ **重点取組**

農業者を中心とした地域のコミュニティ機能の発揮を促進し、農村の振興と多面的機能の維持・発揮に取り組むとともに、担い手の負担軽減と農地集積等の構造改革を後押しする。

#### ◆ 地域ぐるみの活動促進による地域コミュニティ機能の発揮

##### ・ 地域資源の保全活動への支援

	計 画	実 績	評価
取組内容	➤ 地域資源の維持・保全が図られた農地 ----- 20,000 ha を支援 ※ 中部地域 (6,022 ha)、西部地域 (2,709ha)、 吾妻地域 (2,519ha)、利根沼田地域 (3,473ha)、東部地域 (5,277 ha)	➤ 地域資源の維持・保全が図られた農地 ----- 17,553 ha を支援 ※ 中部地域 (4,200 ha)、西部地域 (2,637ha)、 吾妻地域 (2,500ha)、利根沼田地域 (3,597ha)、 東部地域 (4,619ha)	<b>B</b>
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・活動組織等の事務負担軽減を図るため、制度改正や申請・報告様式の見直しに係る研修会を開催した。 ・活動組織と土地改良区の連携強化を図るため、土地改良区役員研修会及び、国予算キャラバン等において、土地改良区向けの事業説明を行った。		
現状分析 課 題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・関係市町村及び群馬県水土里保全協議会と連携の上、制度改正内容の周知を含む事務研修会等を開催し、活動組織の円滑かつ持続的な取り組みを支援する。 ・更なる事業推進には、土地改良区との連携が必要不可欠であることから、土地改良区向けの研修会等を開催し、事業の浸透を図る。		

## ・地域資源の長寿命化に向けた取り組みへの支援

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ 活動組織が行う水路や農道等の長寿命化を支援	▶ 活動組織が行う水路や農道等の長寿命化を支援	A
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・関係市町村及び群馬県水土里保全協議会と連携の上、技術研修会等を開催し、活動組織の円滑かつ適切な長寿命化に向けた取り組みを支援した。		
現状分析課題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・国の制度改正により、工事1件あたり上限額が設定され、活動組織の円滑な取組に支障を及ぼすことが懸念されるが、関係市町村との連携を強化し事業推進を図る。 ・関係市町村及び群馬県水土里保全協議会と連携の上、技術研修会等を開催し、活動組織の円滑かつ適切な長寿命化に向けた取り組みを支援するとともに、計画的な事業執行を促し、持越額の低減を図る。		

## ◆ 地域特性を活かした中山間地域の活動支援

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ 農業生産活動の継続に向けた中山間地域等直接支払制度の活用 ----- 1,647 ha を支援	▶ 農業生産活動の継続に向けた中山間地域等直接支払制度の活用 ----- 1,430 ha を支援	B
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・農業事務所や市町村担当者を参集した会議など様々な機会を通じて、事業制度の理解促進、制度の効率的、積極的な活用を支援する。		
現状分析課題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・目標達成のためにまずは、制度の熟知のための研修会や事務支援等を引き続き実施していく必要がある。畑についても鳥獣害防護策等と併せ推進していく。		

## 数値目標

目標名	H26 (基準年)	H27	H28	H29	H30	H31(R元) (目標年)
<b>多面的機能の維持・発揮が図られた農業集落数 [重点]</b>						
目 標	—	—	376	486(408)	561(440)	635(478)
実 績	305	435	486	561	632	656
<b>農地・農業用施設の維持・保全が図られた農地面積 [ha]</b>						
目 標	—	—	15,402	16,426	18,202	20,000
実 績	12,945	13,963	15,585	16,828	17,747	17,553
<b>中山間地域等直接支払交付面積 [ha]</b>						
目 標	—	—	1,378	1,430	1,500	1,647
実 績	1,587	1,372	1,381	1,427	1,427	1,430

※ 数値は、累計値。

※ 実績値が H31(R元)目標値を超えた場合、次年度の目標値に前年度の実績値を標記し、当初目標値を括弧で標記。

## ② 地域構想づくり支援 ～ 地域活性化のための基盤づくり ～

地域で取り組む農地利用集積と、担い手との連携強化への取り組みを推進するとともに、地域による地域資源保全管理構想の話し合いの場等を活用し、地域が描く将来像の検討にモデル的に取り組む。

## ◆ 地域の実情に即した将来像の検討

取組内容	計 画	実 績	評価
	▶ モデル地区の設定及び構想づくり支援 ----- 2地区を支援	▶ モデル地区の設定及び構想づくり支援 ----- 2地区を支援	A
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・中部、利根沼田地域においてモデル地区を設定した。 ・関係市町村と連携し、各モデル地区で取り組む「地域資源保全管理構想」の策定を支援した。		
現状分析 課 題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・関係市町村と協議・調整を図り、モデル地区を設定し、地元が良い将来像が描けるよう支援する。		

## 数値目標

目標名	H26 (基準年)	H27	H28	H29	H30	H31(R元) (目標年)
地域構想づくり支援実施モデル地区数 [地区]						
目 標	—	—	1	1	1	8(5)
実 績	1	1	1	1	6	8

※ 数値は、累計値。H31(R元)目標値は、次年度の目標値に前年度の実績値を標記し、当初目標値を括弧で標記。

## ③ 農業農村への理解促進 ～ 円滑な取り組みへの協力 ～

農業農村では、食料の安定供給や多面的機能の維持・発揮など、広く県民がこれらの恩恵を享受していることから、農業農村についての理解促進を図る。

## ◆ 農業農村及び農業農村整備事業への県民の理解促進

取組内容	計 画	実 績	評価
	▶ 県民に対する農業農村整備事業等の周知 ----- 広報委員会による広報活動	▶ 県民に対する農業農村整備事業等の周知 ----- 広報委員会による広報活動	A
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・県内の小学生に対して、農業農村整備事業の理解を促すため、「どろんっ子新聞」を作成し、配布した。 ・農業土木を学ぶ県内外の大学生を対象に、インターンシップを開催し、農業農村整備事業が災害復旧について果たす役割を紹介した。		
現状分析 課 題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・動画スタジオを活用した情報発信できるよう、活動内容の検討を行う。 ・農業農村整備事業の果たす役割について、今後も高校生や大学生を対象に現場見学会等の開催を行っていく。		

## 数値目標

目標名	H26 (基準年)	H27	H28	H29	H30	H31(R元) (目標年)
県民への理解促進に向けた広報活動回数 [回/年]						
目 標	—	—	40	40	40	40
実 績	(40)	—	50	40	40	40

※ 過去5年間(H23～27)の平均回数を目標に実施・支援する。また、数値は、単年度取組数。